



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

中東和平問題：ケリー国務長官の5回目の中東和平・仲介外交

米国のケリー国務長官は、6月27日から30日まで、中東和平交渉再開のためのイスラエル・パレスチナ間のシャトル外交を行った。国務長官就任後5回目の仲介作業である。「72時間の仲介努力」とも報道された協議で、ケリー国務長官は、イスラエルのネタニヤフ首相、アッバース大統領とそれぞれ3回会談した。ネタニヤフ首相との最後の会談は、29日夜から30日午前4時まで約6時間行われた。同長官は、その後、西岸のラマラを訪問、アッバース大統領と会談した。

6月30日、ベングリオン空港での記者会見で、ケリー国務長官は、実質的な進展があり、交渉再開は手の届く位置に来たと述べた。同長官は、協議の詳細は明らかにしていないが、交渉チームを現地に残して詰めの協議を行うとした。ケリー国務長官は、出発日を2日延期して仲介を継続した。

報道によれば、ケリー国務長官は、29日夜から30日朝に行ったネタニヤフ首相との協議の後、信頼醸成措置などのパッケージ案をアッバース大統領に提示した。パレスチナ側は、交渉再開に同意していないが、ケリー国務長官がパレスチナ側の立場に深い理解を示したことを歓迎している。パレスチナ側は、直接交渉再開の条件として、①入植地建設の凍結、②パレスチナ人囚人（120人）の釈放をあげていた。また交渉が再開された場合、国境線確定と安全保障問題を協議するとされている。

ケリー国務長官は、ヨルダン、イスラエル、パレスチナを訪問する前にクウェイトで、中東和平の仲介努力の時間的枠組みについて、今回初めて、国連総会が開催される9月までに一定の成果をあげる必要があると述べている。ただ、同長官は厳格な時間枠を設定するつもりはないようだ。

評価

30日、ベングリオン空港で記者会見したケリー国務長官は、協議で進展があったとして交渉再開に楽観的な見方を表明したが、イスラエル、パレスチナ側から同様のトーンの発言はない。ただ同長官は、仲介作業で手ごたえがあったと感じているのは確かなようである。ケリー国務長官が言うように、交渉再開が近い状況にあるとすれば、イスラエル、パレスチナのそれぞれの側で、交渉再開に反対する動きが出る可能性がある。

(中島主席研究員)